コミュニケーション能力アップには

社会学部教授
森田雅也（もりた まさや）

専門分野の関係上、人事の実務家の方たちと意見交換させて頂く機会が多い。先日もある場でこんな質問を頂いた。「早くに内定をもらってくる学生さんにはどんな特徴がありますか。」あまり考えたこともない突然の問いかけだったが、私の答えは、「私にいろいろと話しかけてくる学生ですね」だった。

就職に求められる能力の一つとしてコミュニケーション能力があげられているが、それは、言葉を通じて、相手の言いたいことを理解し、自分の言いたいことをわかってもらえる力と言えるだろう。大学を卒業するまでの学校組織と企業組織との大きな違いの一つは、基本的に学校は同世代のメンバーで構成されているのに対して、企業はおおよそ20歳から60歳の年齢層に属する、自分とは異なる年齢のメンバーで構成されているところである。そこで働くためには、異なる世代の人たちとコミュニケーションをとれることが必須であり、それゆえに採用時にそうした能力の有無が問われるのであろう。

ゼミの担当教員は、学生諸君とは世代の異なる人間である。また、教員との1対1での意見のやりとりは、自分の考えを伝え、教員の考えを聞き取ることに集中する時間となり、友達と話すのとは違う、少し緊張したものになるだろう。結果として、教員と話をすることは、異なる世代の人とコミュニケーションをとる練習をしていることになるわけである。

こうした行動を取れば就職が決まる、というわけではもちろんないが、早くから内定をもらってくるゼミ生の多くに、教員に積極的に話しかける傾向がみられるのも事実である。ハウツー本で就活のためのコミュニケーション能力アップをはかるよりも、日頃から身近な「資源」である教員をこうした形で大いに利用してみるのはいかがだろうか。そんな忙しさなら、こちらも大歓迎である。